
T字路の少年

狂風師

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Ｔ字路の少年

【Ｎコード】

N49880

【作者名】

狂風師

【あらすじ】

Ｔ字路でぶつかった少年。

Ｔ字路の少女の続きの作品。

（前書き）

Ｔ字路の少女の続きとなっております。

読んでない方はそちらを先にお読みください。

今度は自信を持って言える。グロ注意。

ある場所で意識が戻った。

とはいえ、戻ったのは意識だけで、体は動かせない。

見えたのは、目の前に怯えた男の人がいる。社会人くらいの。

次の瞬間、その男は赤い液体を噴き出して動かなくなった。

俺の手が、その赤い液体で染まる。俺の右手にはナイフ…いや、包丁。

まだその感覚が残る。人を切りつけた嫌な感覚がネバネバと残る。嫌悪感が伝わってきててもどうしようもない。俺の体であって俺の体でないのだから。

俺は…俺は…。一気に記憶が戻った。

頭の中が大爆発を起こしそうになるほどの、大量の俺の記憶。

じゃあこの男は…俺の姉みたいな存在。…つまりこの後…。

それにあの時…。俺が俺である時に聞いた少女の声。

”助けて”と。

俺もここで意識が戻ったように、少女もそこで意識を戻したのではないか。

そして必死になって言った言葉。” 助けて”

なら俺は少女の” 助けて” やる。少女が助けられなかった分まで。

俺が、ここで意識が戻ったのはそのため。俺がやらなくてどうする。

その言葉とは裏腹に、俺の手は、死んでいる男性を包丁で切り刻んでいた。

腹を切り開き、内臓を抉り出し、肉を剥ぎ取る。

腕の肉も脚の肉も剥ぎ取る。体中ぽっかりと窪んでいる。

この肉で焼肉丼…。俺も食べた姉の肉…。

少女もこんな事を…。

かと言って体は言う事を聞かない。どうすることもできない。

ただひたすらに、人を切り刻む嫌悪感に耐えることしか出来ない。今はまだ…。

次に意識を戻したのは…布団？

目の前に布団がある。…誰か寝ている。

…あの時か。助けるには時間が少なすぎる。くそっ！ どうやって…。

俺「おきてるね」

口も言葉も勝手に。あの時と同じ事を言っている…。

布団を剥ぎ取ると、やはりあの女の人が寝ていた。起きてはいるものの、俺と同じで喋る事も動く事もしない。

俺「待ってて、いまご飯持ってくるね」

後は、あの骨を見つけて逃げ出す。そしてまた…。

どうしろって言うんだよ！ 体は動かせないって言うのによぉ！！

くそっ！ くそっ…！ 何か…何かきっかけがあれば…。

ちらりと見えた月。いつも通りの月…。

…ん？ いつも通りの月？

確か俺の時は紅かったような…。何だ、このざわめき…。

俺が男だから？ そんなの関係ない。これまで全て同じだった。

家族関係。家の様子。やっていること。

家族関係は、あの女の人と兄（だと思っ）の関係しか知らないけれども、たぶん俺のと同じ関係だろう。

ならば、なぜ月の色が違う？ あの時とは違う何か…。

無意識のうちに俺は、自分の力で自分の足を動かし窓の方へ近づいていた。

下から悲鳴。俺はすぐにわかった。骨、骨を見たんだ。助けるなら今しかない。

地下に続く階段を下り、女の人所まで急ぐ。

が、途中で階段を上ってきた女の人にぶつかった。すぐ起き上がり追いかける。

俺「待つて！ 待つてくれ！」

いつの間にか俺は、声も自分で出せるようになっていた。あらん限りの声で女の人を呼び止める。

もちろん悲鳴しか返ってこない。

家から出られたら終わりだ。それまでにどうにかしないと。

俺は必死に呼び止めた。

幸い、玄関の扉を開けた瞬間に女の人腕を掴んだ。

女の人「離して！ 離してよ！！」

俺「大丈夫だつて！ 俺だ！！ 何もしない」

暴れて抵抗する女の人を、俺は強く優しく抱きしめた。

俺「大丈夫…全部…全部思い出したから…」

暴れていた女の人が、とたんに静かになった。無言の時間が流れる。

女の人「……私も…」

消えてしまいそうな細い声で、ぽつりと呟いた。

意識を集中しないと聞き取れないような声で。

女の人「…助けて…くれたんですね。…私が…あの少女です」

えっ？ あの少女？ どういうこと？ 一体何が…？

ちょ…誰か説明してくれ…。何がどうなってるんだ？

女の人「私が…」助けて」と言っただけです。…今、全部思い出しました」

…いやいやいや。まだ状況が掴めないんだが。

何？ この人があの時の少女だって言うのか？

俺「つ、つまり、本当にあんたがあの時の？」

女の人「そうです」

…は？ もっと詳しく。

女の人「つまり、私達はずっと、あの流れをしてきたんです。片方が幼くなり、もう片方を自分のものにする」

女の人「でもこれで全部終わった。あなたが気付いてくれたから」

俺「……………」

開いた口が塞がらない…。

女の人「終わったんです。袋小路から抜け出したんです…。これで2人とも高校生としての生活が——」

目の前が真っ白になった。

何も無い真っ白。

白…。

白い光が差し込んで、白に跳ね返る。

全て白…。

ドンッ

「キャア!!」

人通りの少ない丁字路で誰かとぶつかった。『痛い』より先に『なんてベタな』

なんて思った。『相手は大丈夫か』よりも『どこのゲームだよ』
なんて。

f i n

(後書き)

これで『T字路の少女』完結です。

あ後はループしていきます(笑)

はっぴえんど? なにそれ、おいしいの?

では、皆様。ご愛読ありがとうございました!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4988o/>

T字路の少年

2010年10月25日00時49分発行